

静岡縣近代史研究会

会報

7月
2024年10日
月刊第550号

<7月例会レジュメ>

合評会・黒川みどり『評伝 丸山眞男—その思想と生涯—』

(有志舎、2024年3月、340頁)

文責 橋本誠一

あらためていうまでもなく、政治学者・丸山眞男(1914-1996)は、大塚久雄(経済史)、川島武宜(法律学)などと並び立つ戦後日本を代表する知識人の一人として、長きにわたり(haterも含めて)多くの読者を獲得してきた。このたび、本会会員である黒川みどりさん(静岡大学名誉教授)がその丸山の著作を時系列的に読み解き、彼の思想の全体像を描き出すべく、本書を上梓された。本書の章立ては以下の通りである。

- 一 誕生から一高時代まで(1914-1934)
- 二 研究者としての出発(1934-1944)
- 三 軍隊という経験(1944-1945)
- 四 「精神の革命」を求めて(1945-1950)
- 五 ファシズム再来への危機感から「部落共同体」との対峙へ(1950-1960)
- 六 「在家仏教」主義を掲げて(1960-1972)
- 七 「日本思想史における連続性と変化」の追究(1972-1984)
- 八 「国家」を問う(1984-1996)

丸山が「日本の思想」(1957)などで指摘しているように、日本では思想が(思想と思想の間の)対決と(その結果の)蓄積の上に構造化されないという伝統がある。ある時代に華々しく行われた論争が共有財産となって次の時代に受け継がれていくことがきわめて稀であるのはその一例である。それだけに、本書のように丸山眞男の古典的業績を改めて読み直しその現代的意義を考えることは、日本的伝統の弱点を克服する一丸山的に言えば「思想を構造化する」一ために必須の営みであるといえるだろう。

著者は丸山眞男の業績を実に丹念に追跡し分析している(そのおかげで、本書は読者にとって丸山眞男へのすぐれた「道案内」にもなっている)。そのうえ、

① $1 \div 3 \times 30$ は算数の問題です。

① : $(1 \div 3 \times 30)$ をそのまま普通に計算すると、答は 10。

② : しかし、 $(1 \div 3)$ を一回計算し、その答 $(0.33333333\dots)$ に $(\times 30)$ を計算すると、答は $9.9999999999\dots$ 。

① は $(1 \div 3 \times 30)$ を一つにまとめて計算するから算数の一元論になり、② は二つに分けて計算するから算数の二元論になります。

私と私の脳について、「私の体の一部である脳が考えているのだから、私が考えているだ」と考えるのは私と私の脳の一元論で、「脳といってもそれは物質であり、物質が或る働きをすることが何故私が考えることになるのか」と考えるのは二元論であります。

そして歴史について言えば、関東大震災の自警団や太平洋戦争中の隣組にもし自分がいたら多分同じように行動していただろうなと考えるのを歴史の一元論といい、自分だったらあのようにには行動しないだろうと考えるのは二元論というのか。これはちょっと言葉の使い方が違うような気がする。

昔、春日三球・照代という漫才コンビがいた。「地下鉄の電車はどこから入れたの？それを考えると一晩中寝られないの。」(昭和50年代、三球さんは「寝られない」ではなく、「寝られない」と言っています。)

例会のお知らせ

< 7月拡大例会 >

日時：7月20日(土)13:00-17:00

場所：Web 会議システム Zoom/鎌倉文庫

申込方法：本誌2ページ目をご覧ください。

内容：合評会『評伝 丸山眞男—その思想と生涯』

< 9月例会 >

日時：9月21日(土)14:00-17:00

場所：Web 会議システム Zoom/鎌倉文庫

申込方法：9月会報に掲載します。

内容：第1回原口清先生記念研究奨励制度受賞講演・伊故海貴則氏
(北海学園大学)

< 会報に原稿をお寄せください >

会報原稿は、下記のアドレスにメールで送ってください。但し、掲載号については会報編集担当者にお任せください。どうぞよろしくお願いたします。

メールアドレス：cqh00053@nifty.ne.jp
(会報編集担当：川上)

< 新入会員紹介 > (敬称略)

野村淳一 (j-nomura@mtc.biglobe.ne.jp)

静岡県近代史研究会会報 第550号 (月刊)

2024年7月10日

非売品 (非会員は印刷実費100円)

連絡先 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学 国際関係学部 森山優研究室

電話：054-264-5386 (直通)

年会費：4,000円 (メール会員は3,500円)

ゆうちょ銀行払込口座：00850-6-54573

ホームページ：

<https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com/>